

# ニューカッスル病（油性アジュバント加）不活化ワクチン

平成 28 年 4 月 18 日（告示第 1020 号） 一部改正

## 1 定義

ニューカッスル病ウイルスを発育鶏卵で増殖させて得たウイルス液を不活化し、油性アジュバントを添加したワクチンである。

## 2 製法

### 2.1 製造用株

#### 2.1.1 名称

ニューカッスル病ウイルス石井株又はこれと同等と認められた株

#### 2.1.2 性状

10 日齢の発育鶏卵の尿膜腔内に注射すると増殖し、その尿膜腔液には鶏赤血球凝集性を認める。

#### 2.1.3 継代及び保存

原株及び種ウイルスは、生ワクチン製造用材料の規格 1.1 の発育鶏卵で継代する。

継代は、原株では 3 代以内、種ウイルスでは 2 代以内でなければならない。

原株及び種ウイルスは、凍結して  $-70^{\circ}\text{C}$  以下又は凍結乾燥して  $5^{\circ}\text{C}$  以下で保存する。

### 2.2 製造用材料

#### 2.2.1 発育鶏卵

9～11 日齢のものを用いる。

### 2.3 原液

#### 2.3.1 発育鶏卵の培養

1 回に処理する発育鶏卵を個体別発育鶏卵とみなす。

個体別発育鶏卵について、3.1 の試験を行う。

#### 2.3.2 ウイルスの培養

種ウイルスを発育鶏卵で培養し、感染増殖させた尿膜腔液のろ液、遠心上清又はこれを濃縮したものをウイルス浮遊液とする。

ウイルス浮遊液について、3.2 の試験を行う。

#### 2.3.3 不活化

ウイルス浮遊液を適当と認められた方法により不活化し、不活化ウイルス浮遊液とする。

不活化ウイルス浮遊液について、3.3 の試験を行う。

#### 2.3.4 アジュバントの添加

不活化ウイルス浮遊液に適当と認められた油性アジュバントを添加し、原液とする。

ただし、最終バルクの調製時にアジュバントを添加してもよい。

原液について、3.4 の試験を行う。

### 2.4 最終バルク

原液を混合し、濃度調整し、最終バルクとする。

### 2.5 小分製品

最終バルクを小分容器に分注し、小分製品とする。

小分製品について、3.5 の試験を行う。

## 3 試験法

### 3.1 発育鶏卵の試験

個別発育鶏卵の1%以上又は30個以上を対照発育鶏卵とし、これについて次の試験を行う。

#### 3.1.1 培養観察

対照発育鶏卵を、ウイルスを接種することなく、ウイルスの培養と同じ条件で培養し、観察するとき、鶏胚に異常を認めてはならない。

#### 3.1.2 鶏赤血球凝集試験

3.1.1の試験最終日に尿膜腔液を採取し、0.5vol%鶏赤血球浮遊液を等量加え、60分間静置し、観察するとき、赤血球凝集を認めてはならない。

### 3.2 ウイルス浮遊液の試験

#### 3.2.1 ウイルス含有量試験

##### 3.2.1.1 試験材料

###### 3.2.1.1.1 試料

検体をリン酸緩衝食塩液で10倍階段希釈し、各段階の希釈液を試料とする。

###### 3.2.1.1.2 発育鶏卵

生ワクチン製造用材料の規格1.1の9～11日齢のものを用いる。

###### 3.2.1.2 試験方法

試料0.1mLずつをそれぞれ5個以上の発育鶏卵の尿膜腔内に注射し、37℃で5日間培養し、観察する。試験最終日に尿膜腔液を採取し、0.5vol%鶏赤血球浮遊液を用いて赤血球凝集試験を行う。

###### 3.2.1.3 判定

尿膜腔液に赤血球凝集を認めたものを感染とみなし、EID<sub>50</sub>を算出する。

ただし、24時間以内に死亡したものは除外する。

検体のウイルス含有量は、1mL中10<sup>8.0</sup>EID<sub>50</sub>以上でなければならない。

### 3.3 不活化ウイルス浮遊液の試験

#### 3.3.1 無菌試験

一般試験法の無菌試験法を準用して試験するとき、適合しなければならない。

#### 3.3.2 不活化試験

##### 3.3.2.1 試験材料

###### 3.3.2.1.1 注射材料

検体を注射材料とする。

###### 3.3.2.1.2 発育鶏卵

生ワクチン製造用材料の規格1.1の9～11日齢のものを用いる。

###### 3.3.2.2 試験方法

注射材料0.1mLずつを10個以上の発育鶏卵の尿膜腔内に注射し、5日間培養した後、尿膜腔液を採取し、更に1代継代し、5日間培養し、観察する。試験最終日に尿膜腔液を採取し、0.5vol%鶏赤血球浮遊液を用いて赤血球凝集試験を行う。

###### 3.3.2.3 判定

鶏胚は、正常に発育しなければならない、尿膜腔液に赤血球凝集性を認めてはならない。

### 3.4 原液の試験

#### 3.4.1 無菌試験

一般試験法の無菌試験法を準用して試験するとき、適合しなければならない。

### 3.5 小分製品の試験

#### 3.5.1 特性試験

一般試験法の特性試験法を準用して試験するとき、固有の色調を有する均質な懸濁液で、静置すれば下底に水層の分離を生ずる場合があるが、振とうすれば白色の均一な液体でなければならない、異物又は異臭を認めてはならない。小分容器ごとの性状は、均一でなければならない。

#### 3.5.2 無菌試験

一般試験法の無菌試験法を準用して試験するとき、適合しなければならない。

### 3.5.3 ホルマリン定量試験

#### 3.5.3.1 試験材料

試験品 40mL に塩化ナトリウム 1.4g を加え、よく振とうして溶解した後、室温に 30 分間静置する。これを 12,000G で 1 時間遠心し、水層をとり試料とする。

#### 3.5.3.2 試験方法

一般試験法のホルマリン定量法を準用する。

#### 3.5.3.3 判定

ホルマリンの含有量は、測定値を製品中における含有量に補正するとき 0.2vol% 以下でなければならない。

### 3.5.4 安全試験

#### 3.5.4.1 試験材料

##### 3.5.4.1.1 注射材料

試験品を注射材料とする。

##### 3.5.4.1.2 試験動物

生ワクチン製造用材料の規格 1.1 由来の 4～5 週齢の鶏を用いる。

#### 3.5.4.2 試験方法

試験動物 10 羽を試験群、3 羽を対照群とする。

注射材料 1 羽分ずつを試験群の筋肉内に注射し、対照群とともに 2 週間観察する。

#### 3.5.4.3 判定

観察期間中、試験群及び対照群に臨床的な異常を認めてはならない。

### 3.5.5 力価試験

#### 3.5.5.1 試験材料

##### 3.5.5.1.1 試験動物

3.5.4 の試験に用いた鶏を用いる。

##### 3.5.5.1.2 赤血球凝集抗原

「ニューカッスル病診断用赤血球凝集抗原」を用いる。

#### 3.5.5.2 試験方法

3.5.4 の試験最終日に試験群及び対照群から得られた各個体の血清について、ニューカッスル病ウイルス赤血球凝集抑制試験を行う。

#### 3.5.5.3 判定

赤血球の凝集が抑制された血清の最高希釈倍数を赤血球凝集抑制抗体価（以下「HI 抗体価」という。）とする。

試験群の 80 % 以上が HI 抗体価 160 倍以上でなければならない。この場合、対照群のすべてが HI 抗体価 5 倍未満でなければならない。ただし、特に承認されたものは、その抗体価とする。

## 4 貯法及び有効期間

有効期間は、1 年間とする。ただし、特に承認されたものはその期間とする。